

教員名	新田 さやか	所属学科	地域づくり学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>本ゼミナールでは、「当事者性」、「地域生活」、「支援」をキーワードに据え、社会的バルネラブルクラスの課題とそれらの課題に対する様々な支援や当事者のパワー、当事者コミュニティ、市民活動等について文献講読、フィールドワークによって学びを深め、誰かの支えを活用しながら「地域で暮らす」ことを実現できるケアリングコミュニティについて理論的、実践的に考察します。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>本ゼミナールでは、以下の3つを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な属性の人びとの固有性、当事者性が排除されない「ケアリングコミュニティ」の構築とその可能性について議論し、意見を述べることができる。 2) 自らの問題関心を明らかにし、ゼミの場で発表できる。討議に主体的に参加できる。 3) レジュメ・レポートの書き方を身につけ、レジュメ、ゼミ論、卒業論文を作成できる。 <p>【基礎演習】 文献講読とディスカッションを中心に進めます。基礎演習では「当事者性」について考えるための文献を読みます。</p> <p>【演習Ⅰ】 基礎演習での学びをふまえ、グループ研究を行います。前学期は、①グループごとに研究テーマを設定し、情報収集、フィールドワーク先の検討、フィールドワークの実施内容を検討します。後学期には、フィールドワークによって得られた学びを通して、ケアリングコミュニティ形成に向けた実践的な提案を検討し、成果物としてゼミ論を作成します。このほか、個人による文献レビューも予定しています。</p> <p>【演習Ⅱ】 卒業論文に関わる各自の問題関心の明確化、テーマ設定、資料収集、構成の検討、構想発表を行い、卒業論文の執筆を進めます。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>大学での学びを通して、誰かの抱えている問題や苦しみ悩みに共感し、一緒に考えてアクションを起こそうとする福祉マインドを養ってほしいです。生活者の視点、福祉的課題を見出し、その解決に向けた行動力・実践力は、公務員、教育、一般企業など多様な分野で求められる力だと思います。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹端寛（2025）『福祉は誰のため？』ちくまプリマー新書 ・大野更紗（2012）『困ってるひと』ポプラ文庫 ・伊波敏男（2007）『ハンセン病を生きて一きみたちに伝えたいこと一』岩波ジュニ 			

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

地域には多様な人が暮らしています。生活に困りごとを抱えている人、日頃から地域の活動に参加している人、地域に愛着を持っている人、引っ越してきたばかりで知り合いがいない人など。あなたも地域で生活する一人です。地域に目を向けると、色々な人の暮らしや思いが見えてきます。どうしたらよりよい地域を皆でつくっていくことができるのか、そのための課題は何か、大学でぜひ、一緒に考えましょう。